

大学院では、学部で培った演奏技術や音楽表現をさらに高度なものに発展させ、個々の学生の研究テーマに沿って、学生と担当教員が相談しながらきめ細かい研究方針を策定し、プロフェッショナルとして自立し、社会に貢献できる音楽家を目標に研究を実施します。

より専門的かつ実践的な研究を重視し、高い演奏表現力と洗練された室内楽感覚を身につけるために、「室内楽実習・演習」では第一線で活躍する室内楽奏者と共演しながら研究を進めます。授業はプロ音楽家の指導を受けながら進めるリハーサルと、担当教員によるレッスンで構成され、年二回の研究発表会で成果を示し、学位審査会で結実するという一連のカリキュラムとなっています。

室内楽・ピアノ・弦楽器を専攻する学生が履修対象の「室内楽特殊研究」では、テーマとなる作品についてセミナー形式で分析・演奏解釈を行います。「室内楽実習」では、学生が自主的にグループを組み、弦楽四重奏やピアノ三重奏など、各講座単位では困難な室内楽領域の研究に担当教員と共に取り組みます。「オーケストラ実習」、「チェンバーオーケストラ実習」を含め、これらの科目を通じて、広範な視野と深い学識、演奏技術を養います。

その他、関連知識を深めるため「原典特殊講義」、「音楽研究基礎」、「他専攻の授業科目」、「学部開設授業科目」を履修することもできます。

学位取得に際しては、「演奏及び論文」または「演奏のみ」の2つの審査科目から選択することが可能です。